

# 清風

瀧尾弘吉先生より贈られた「窓下有清風」の書より

山本靖雄  
後援会  
だより

## 不況という名の一大転換期を乗り越える鍵は 幅広い視野と後継者の育成。

広島商工会議所 副会頭  
㈱タカキペーカリー 会長 景山 崇人氏

景気回復の兆しが見えないまま、新年を迎えました。㈱タカキペーカリーの会長で、商工会議所副会頭をつとめておられる景山氏とは、修道の先輩後輩という関係。不況の中の企業経営について忌憚のないご意見をうかがいました。

山本 景気低迷が続いていますが、会長はこの不景気をどうごらんになつていらつしやいますか？

景山 私はね、今は不況ではないと思つてゐるんですよ。

山本 と、おつしやいますと？

景山 従来の不況ではなくて、世の中の流れ、経済のしくみが大きく変

わろうとしている時期ではないでしょうか。この間、日経新聞でピーター・ドラッカーが「リセッションではなく転換期。製造業依存型の産業構造が、根本から変わらうとしている」と言っていました。広島はまさに製造業依存型都市でしょう。根本からの転換期だからこそ、乱気流は激しいし、落ち着くまでに時間もかかる。

山本 広島県は、平成4年・5年度で公共投資を含む約千億円の経済対策としての補正予算を組みました。が、なかなか効果が表れて来ないようですね。

景山 その千億円が、本当に活性化のために生かされているかどうかが大切ですね。昔の話に「長岡藩の百俵の米」というのがあります。きさんの年に、蔵の種モミをみんなに分け与えるべきだという中、家老が「今食べてしまふよりも、来年の米作りをするところ大切だ」と、あえて分けなかつた。金をばらまいて一時的に助けてもダメですよ。

山本 どう使われているのか、追跡調査をしなければならぬと思えます。その評価の中で、次をどうするかを考えていくべきですね。

景山 そう、そして企業自身も常に「本当に社会の役に立っているのだろうか」と考え続けなければ……。決してきれいごとではなくね。世の中がどう変わつてゐるのか、どう変われば役に立つのか。それを見きわめることが、企業が生き残つていく方法だと思ひます。

山本 世の中の変化を見きわめるといふのは、むずかしいことですね。

景山 そうです。本當にむずかしい。私なんか眼鏡が古いからなかなかよく見えない(笑)。でも古いから見えるということもある。まあじつと、幅広く見るといふことでしょうかね。歴史を振り返ることも大切だし、天文学を勉強すれば自分の位置が見えてきます。



山本 私はとにかく外国に行くようにしています。外国の人や文化と直接触れ合つと、何かヒントをつかめる気がします。

景山 それはいいことですね。うちでも20年前から新入社員を海外研修に行かせています。当時の社員が今40代になって、やつと仕事をしだした(笑)。人を育てるにはガマンと金と時間がかかります。でも、企業経営の半分は後継者を育てることですから、山本 後継者づくりも、転換期を乗り越えるために重要だということですね。

景山 そうです。今の日本にとって40代、50代の人材がいればん大事。あなたにもうんと頑張ってもらわんといかんよ(笑)。

山本 はい、頑張ります。本日はお忙しいところ貴重なお話をありがとうございました。今後ともご指導の程よろしくお願ひいたします。